

プレスリリース 2023年2月14日

## 北極圏に新たな漂流型科学探査基地 「タラ極地ステーション」を展開します

約 500 日間のタラ号北極プロジェクトから 15 年、タラ オセアン財団は北極圏で新たな科学探査を開始する準備を進めています。この重要な地域を継続的に探査するために、タラ オセアン財団は観測と科学研究のために特別に設計された漂流型極地科学基地の建設に取り組みます。海氷の中に隔離され、北極圏の大気から深海まで、気候変動が海洋生物に与える影響を理解するために、気候の監視役・北極圏を徹底的に研究します。

タラ極地ステーションは、2025 年を目標に北極海の海氷の中に設立される予定です。

この探査の目的は、気候変動が生物多様性に与える影響と固有種の適応能力をよりよく理解するため、地球上で最も過酷な環境のひとつである北極圏でのフランスおよび国際的な研究を推進することです。この新しい計画は、「2030 年に向けたフランスの極地戦略」の北極圏での展開に貢献するものです。



© Fondation Tara Océan

### 2045 年まで北極圏で繰り広げられる、科学と人類の未曾有の挑戦

海に浮かぶ漂流型極地科学基地「タラ極地ステーション」（オリヴィエ・プティ／タラ オセアン財団設計）には、2045 年までいくつものミッションが予定されており、世界中の科学者が参加します。気候学者、生物学者、物理学者、氷河学者、海洋学者、アーティスト、医師、ジャーナリスト、そして船員が力を合わせ、基地内で共同生活を送り、冬は極夜の中、 $-20^{\circ}\text{C}$ から $-45^{\circ}\text{C}$ の温度下で観測・実験を行います。

このフランス主導の計画には、すでにフランス国立科学研究センター（CNRS）、フランス極地研究所、ケベック州ラヴァル大学、米メイン大学、フランス原子力・代替エネルギー庁（CEA）、スイス極地研究所、アルフレッドウェゲナー極地海洋研究所、ドイツ研究センターヘルムホルツ協会、デンマーク極地研究センター、フランス国立宇宙研究センター（CNES）等が参加しています。これらの機関は、気候変動の原因と結果を理解する上で大変重要でありながら、いまだ多くの謎を秘めたこの環境の解明に向けて、学際的な研究を行う予定です。主な研究テーマは、北極圏への海洋生物の移動とその実態、気候変動が北極圏の生態系機能に及ぼす影響、バイオテクノロジーと生物医学の新発見、極限環境への生物の適応、北極における気候変動のメカニズム等です。

**タラ極地ステーションは、スクーター船タラ号とともに、海洋研究を進めていきます。**

タラ オセアン財団の使命は、地球上のあらゆる海で、海洋学的探査と科学的発見を可能にすることです。これまでに極地への航海をしたナンセンのフラム号、スクーター船タラ号、MOSAIC 北極探検に続いて、タラ オセアン財団では北極圏での長期調査とコスト削減を可能にする新しくユニークな観測施設を提供します。この極地基地では、12～20人のクルーが1年半の連続した任務を遂行する事が出来、私たちの共通の未来にとって不可欠な国際協力を推進していきます。

「氷に覆われ、到達困難な地域にある北極海は、科学者、特に生物学者にとっていまだ多くの謎を秘めたままです。北極海では数々のミッションが夏期に実施されてきたものの、季節を越えて長期的に海の上に留まり、生物多様性を調査したものはほとんどありません。この度の多大なる政府支援のおかげで、私たちは今後 30 年間、北極圏の科学探査の限界を押し広げる野望を抱いています。この計画は、気候変動の影響が世界中に及ぶ前に、気候変動に関する重要な知の発見に貢献するでしょう」（ロマン・トゥルブレ／タラ オセアン財団エグゼクティブディレクター）

**タラ極地ステーションに参加しているパートナー**

タラ極地ステーションには、複数のパートナー機関が支援をしています。フランス政府は、フランスの極地戦略の発表の際、未来に向けた新たな投資計画の枠組みの中で「即時の公的資金援助」を行うことを表明しました。また、2022年4月5日に行われたフランスの極地戦略発表会見の席上、オリヴィエ・ポワブル・ダルヴォル極地・海洋問題担当大使は次のように述べています。「我々は、科学的な探査と協力に基づいたフランスの革新的なプレゼンスを北極圏に展開します。タラ オセアン財団が主導するタラ極地ステーションの設立による北極圏探査を実現する計画に、資金面でも科学面でも全面的に協力したいと考えます。」

このほか、ブルターニュ地方とノルマンディー地方がこの計画の大きなパートナーとして参加しています。モナコ公国アルベール2世財団とモナコ探査協会も、この新たな試みを早くから支持してきました。フレデリック・ポールセン博士も、この異例の計画の立ち上げに賛同した一人です。

これらの機関に加え、キャップジェミニ・エンジニアリング、ヴェオリア、BNPパリバ、ビューローベリタスなどの企業や、フランスのアパレルブランド「アニエスベー」創設者のアニエス・トゥルブレも、資金面や技術面でこのプロジェクトの実現に力を注いでいます。

## タラ オセアン ジャパン

タラ極地ステーション計画のメジャーサポーターであるアニエスベーの継続的な支援により、日本はタラ オセアン財団の最も重要なパートナー国の一つとなっています。2016年にはタラ オセアン ジャパンを設立。国民一人あたりが出すプラスチックごみの量が米国に次いで世界第2位という日本において、プラスチック汚染など重要な海洋問題に対する日本人々の関心を高めることを目指しています。タラ オセアン ジャパンと JAMBIO マリンバイオ共同推進機構（日本全国の沿岸に設立された 20 以上の国立大学附属の臨海実験所、水産研究所からなるネットワーク）は、約 3 年前から、日本の沿岸海域のマイクロプラスチック汚染の調査と、生態系への影響を研究する大規模なプロジェクトを実施しています。このプロジェクトの観測により、マイクロプラスチックがいたるところに存在していることが明らかになりました。海のプラスチック汚染は北極海も例外ではなく、このテーマはタラ極地ステーションでも研究されることとなります。

## お問い合わせ先

小澤 友紀 - タラ オセアン ジャパン 広報  
yuki@fondationtaraocean.org - Tel : 070-3851-3092

パトゥイエ 由美子 - タラ オセアン ジャパン 事務局長  
yumiko@fondationtaraocean.org - Tel : 070-3612-6584

ミシェル・テマン (Michel Temman) - タラ オセアン財団 アジア担当  
michel.temman@atthelacetobe.com - Tel : 070-2032-6908

## タラ オセアン財団について

タラ オセアン財団は、フランス初の海洋に特化した公益財団法人です。19年にわたり、フランス国立科学研究センター (CNRS) や関連する科学コンソーシアムとともに、気候変動リスクの予測・予想・理解や生物多様性の保護を可能にする、オープンで革新的、かつ前例のない海洋科学を発展させています。財団の2つの重要な使命は「探査」と「共有」です。海を共通の責任とし、保全するために、タラ オセアン財団とタラ オセアン ジャパンは、この重要な生態系を守るために若い世代や一般の人々の関心を高め、教育することを目指しています。

[www.fondationtaraocean.org](http://www.fondationtaraocean.org) / [www.fondationtaraocean.org/jp](http://www.fondationtaraocean.org/jp)

*agnès b.*

